

LINE 株式会社 2020 年第 3 四半期決算発表

2020 年 10 月 28 日

LINE 株式会社（証券コード 東京証券取引所：3938、ニューヨーク証券取引所：LN）は本日 2020 年第 3 四半期決算を発表いたしました。

第 3 四半期収益及び事業ハイライト

ユーザー/エンゲージメント指標

- 主要 4 カ国の MAU は 1 億 6,700 万人となりました
 - 第 3 四半期における国内 MAU は 8,600 万人となり、前年同期比で 400 万人増加いたしました
- 主要 4 カ国の DAU/MAU 比率は 80%となりました
 - 国内の DAU/MAU 比率は 85%と高水準を維持しており、LINE プラットフォームの引き続き強固なエンゲージメントを表しております

事業概況及び財務指標

全体

- 売上収益は 629 億円(YoY 12.4% ↑ / QoQ 7.7% ↑)となりました
- 営業収益は 909 億円となりました
 - その他の営業収益は、LINE Digital Frontier 株式会社の株式を Webtoon Entertainment 社に対して譲渡し、対価として受領した Webtoon 株式の公正価値再評価利益 95 億円、LINE Man Corporation が第三者割当増資を実施したことによる残余持分の公正価値再評価利益 181 億円が計上されました
- 営業利益は 211 億円となりました。その他の営業収益を除くと 64 億円の営業損失となりました
- 海外売上比率は全体の 27%となりました

コア - 全体

- 当四半期のコア事業の売上収益は 534 億円(YoY 10.1% ↑ / QoQ 5.7% ↑)となりました
- コア事業の営業利益率は 23.4%となりました。広告事業の売上収益の増加により、営業利益率は前四半期より 3.3 ポイント、前年同期比では 6.7 ポイント増加いたしました

コア - 広告

- 広告全体の売上収益は 356 億円(YoY 16.3% ↑ / QoQ 11.6% ↑)となりました
- ディスプレイ広告の売上は 192 億円(YoY 52.9% ↑ / QoQ 17.3% ↑)となりました
 - スマートチャンネルの広告インプレッションの増加に加え、広告単価の改善が好調な業績の主な要因となります
 - 特に、スマートチャンネルの動画フォーマットとなる「Talk Head View」の需要が好調で、幅広い顧客にご利用いただきました
 - 当四半期の広告インプレッション数は前年同期比 73.7%増加となる 768 億インプレッションとなりました
- アカウント広告の売上は 145 億円(YoY 3.8% ↓ / QoQ 6.4% ↑)となりました
 - 当四半期の「LINE 公式アカウント」の開設数は前年同期比 21.6%増加、前四半期比 5.6%増加となる 1,339 万アカウント数となりました
 - 7月より開始した「LINE コール」の設定アカウント数も順調に増えており、「LINE 公式アカウント」は、コロナ禍において、ユーザーと企業をつなげる新しいコミュニケーション手段としての重要な役割を担っています
- その他の広告の売上は 19 億円(YoY 37.3% ↓ / QoQ 1.4% ↓)となりました

コア - コミュニケーション・コンテンツ・その他

- 広告を除くコア事業の売上収益は 179 億円(YoY 0.5% ↓ / QoQ 4.3% ↓)となりました
- コンテンツの売上は 98 億円(YoY 0.5% ↓ / QoQ 6.8% ↓)となりました
 - LINE マンガを運営する LINE Digital Frontier 株式会社が持分法適用会社になったことにより、売上は減少したものの、コンテンツ事業の各サービスは堅調に拡大しています
- コミュニケーションの売上は 75 億円(YoY 8.4% ↑ / QoQ 1.3% ↑)となりました
- その他コア事業の売上は 5 億円(YoY 54.3% ↓ / QoQ 25.7% ↓)となりました

戦略事業

- 戦略事業の売上収益は 95 億円(YoY 27.8% ↑ / QoQ 20.7% ↑)となりました
- 戦略事業の営業損失は 154 億円となりました
- 当四半期における LINE Pay のグローバル取扱高は 4,590 億円、グローバル MAU は 564 万人、国内 MAU は 263 万人となりました
 - コロナ禍において非接触での決済ニーズが高まったことや、クーポンの提供などユーザーが利用頻度高く決済につながる施策を講じた結果、一人当たりの決済高が増え、グローバル取扱高は前年同期比 60%増加しました
 - Visa LINE Pay クレジットカードの取扱高や利用者数も順調に伸びております
- その他戦略事業のサービスにおいては、引き続きデリバリーやテイクアウトの O2O サー

ビスが好調でした。グルメ領域の取扱高は前年同期比で 35%の成長となりました

- 10月よりタイにて、LINE初の銀行サービス「LINE BK」の提供を開始いたしました

その他財務補足情報

- 決済手数料及びライセンス料は 102 億円(YoY 10.9% ↑ / QoQ 0.7% ↓)となりました
- 従業員報酬費用は 203 億円(YoY 14.1% ↑ / QoQ 5.2% ↑)となりました
 - 公開買付けの実施に伴い ESOP (株式給付信託) の費用が増加しました
- マーケティング費用は 71 億円(YoY 43.8% ↑ / QoQ 12.4% ↑)となりました
 - LINE Pay や LINE 証券のマーケティング費用が増加しました
- 販売手数料は 22 億円(YoY 38.5% ↓ / QoQ 8.7% ↑)となりました
- 外注費は 110 億円(YoY 4.5% ↑ / QoQ 6.0% ↓)となりました
- 減価償却費は 67 億円(YoY 16.0% ↑ / QoQ 0.8% ↑)となりました
- その他の営業費用は 93 億円(YoY 8.4% ↑ / QoQ 10.1% ↓)となりました
 - 無形資産及びその他の流動資産の減損損失 25 億円を計上しております
- その他の営業外費用に関連会社株式の減損損失 163 億円を計上しております

Zホールディングス株式会社との経営統合の状況に関するお知らせ

https://d.line-scdn.net/stf/linecorp/ja/ir/all/LINE_20200803_4_JP.pdf

- 2020年8月3日時点において、「経営統合の実施に係る日程に関するお知らせ」をご案内しておりますので、併せてご参照ください
- これまでの開示内容に影響を及ぼす重要な事項が生じた際にはお知らせいたします

その他 2020年第3四半期決算についてのご質問は ir@linecorp.com にお問い合わせください。

メディア関係者は PR 担当者にご連絡ください。